

# 放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果

公表日：令和7年2月28日

放課後等デイサービスBaII-Day

区分	チェック項目	現状評価	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
		職員による評価です	数字は左から順に はい・いいえ どちらともいえない・わからない コメントは原文そのまま掲載	保護者評価を踏まえ、 再度職員の話し合いにより設けた改善目標や今後の運営方針です	
環境・体制整備	1	利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	移転に伴い活動スペースは以前より狭くはなったが、基準よりは圧倒的に広く、十分なスペースの確保ができていると考える。また、視線がぶつかることはないが、互いの存在を感じながら活動できる魅力を感じてもらっていると考えている。	70%・0%・7%・23%	「分からない」が多いように思いますが、移転後も公開イベントを不定期ではありますが実施してきました。ぜひ、子どもたちの活動場所や、刻々と変わる友達関係・雰囲気を感じて来ててください。あわせて、移転以上に、構造化を心がけ、すべての子どもたちが活動しやすい環境整備に努めています。
	2	職員の適切な配置	基準は満たしているが、ギリギリの日が多く、利用児童や保護者の皆様にご迷惑とご心配をかけている。とはいえ、働き方改革が進む時代にあり、ワークライフバランスの取れた勤務シフトを組むように心がけている。それにより、よりよい支援ができるよう考えている。	39%・0%・31%・31% ・人員不足で、過度の負担がかかっておられそうで心配 ・とてもお忙しいので体を壊されないか心配です、難しいと思いますが送迎メインの方がいらっしゃるのかなと感じました。	・スタッフについては、休憩や休日はしっかり確保させていただいております。負担は感じていません。ご安心ください。 ・スタッフの在籍者数はこれまでで最も多いですが、シフトに入ることができる日にムラがあるのが現状です。そのため、求人は出しています。正社員の児童指導員と大学生のアルバイトは安定していますが、非常勤のスタッフの離職をいかに減らすのが課題となっています。
	3	本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	移転に伴い、バリアフリー化については解消した。構造化については、TEACCHの視点を取り入れ、時間や場所・ルールなどを視覚的に示し、明確化している。	61%・0%・0%・39% 新しい場所の見学に行けておらず、すいません。	住環境に溶け込み、かつ子どもたちが自身の生活のなかで再現しやすいような構造化や情報提供に努めています。
	4	清潔で、心地よく過ごせ、子どもたちの活動に合わせた生活空間の確保	昨年まで課題となっていた暑さ対策について、移転に伴い、解消できた。	70%・0%・15%・15% ・物理的な環境は新しくなってから見学に行けておらずわからないが、日々のお知らせや報告を見せていただくと、子供たちの精神的なことへの配慮は大変きめ細やかにしていただいていることが伝わってくる。このような配慮のおかげで子供が心地よく過ごせているのだろうと感じている。 ・休めるスペースもあるので、本人も過ごしやすいようです。	評価結果に甘んじることなく、音・光・においなどの五感が満たされるよう努め、すべての子どもたちが過ごしやすい生活空間の整備に今後も努めていきます。
区分	チェック項目	現状評価	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
		職員による評価です	数字は左から順に はい・いいえ どちらともいえない・わからない コメントは原文そのまま掲載	保護者評価を踏まえ、 再度職員の話し合いにより設けた改善目標や今後の運営方針です	
業務改善	1	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）への職員の積極的な参画	過去の活動・課題の振り返りをもとに、前例などにとらわれることなく、常に利用いただく子どもたちの最善の支援につながるよう、アイデア出しから始め、検討・情報共有をおこない、支援を実施している。その後の振り返りも必ずおこなっている。		昨年に同じですが、職員間での理念・支援方針の統一や情報の共有ができることが当事業所の魅力であり、これからも大切にしていきたいと考えています。
	2	第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	現在は実施していない。		第三者による業務改善のためのアドバイスなどの必要性を必要に応じて検討します。
	3	職員の資質の向上をおこなうための研修機会の提供	職員全員で共有したい支援観や理論などは必要に応じて研修している。外部機関による研修は情報があれば提供をし、鋭意受講している。		最新の情報や、多様な視点の知識を取り入れるため、オンラインによるものも含め、必要に応じて、研修の機会を確保していきます。
区分	チェック項目	現状評価	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
		職員による評価です	数字は左から順に はい・いいえ どちらともいえない・わからない コメントは原文そのまま掲載	保護者評価を踏まえ、 再度職員の話し合いにより設けた改善目標や今後の運営方針です	
適切な支援の提供	1	アセスメントを適切におこない、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析したうえでの放課後等デイサービス計画の作成		84%・0%・8%・8%	すでに多くの子どもたちに当事業所を利用しているの効果や変化・成長を実感いただいています。数値で測るものがないため、明確にお示しができないのが残念です。例えば、過去に不登校や登校渋りで相談を受けた子どもたちのうち、現在、96%が進学に向けた準備や一部時間の登校・別室や適応指導教室などを含む自分のスタイルでの登校をしています。私たちが、学校に行くように促したのではなく、私たちの支援の結果、子どもたち自身の力で行動したものです。これからも、学校生活や将来に向かう気持ちがよりよいものとなるよう計画の作成と支援に努めていきます。
	2	子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた放課後等デイサービス計画の作成	この項目については変わるものではなく、日々の一人ひとりの子どもたちの様子や発言をできるだけ記録し、職員全員で共有している。これらに加えて、学校等の関係機関からの情報・保護者からの情報や要望などを踏まえた目標設定に努めている。		
	3	放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定および具体的な支援内容の記載		84%・0%・8%・8%	

	4	放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	上に同じく、支援計画はもとより、日々のうちあわせやふりかえりで、一人ひとりの課題や支援方法を職員間で確認し合い、子どもたちと向き合っている。	84%・0%・8%・8%	計画どおりに継続的に利用いただいているお子さんについては、必要な支援ができていないのではないかと自負しています。引き続き、すべての子どもたちが当事業所に通所する意義を実感できるよう努めていきます。	
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	当事業所の肝といえるコミュトレについて、かなり時間をかけて試行錯誤をしている。その甲斐あって、多くのお子さんが活動に入ることができ、成長につながっていると考える。		職員間で意見を出したり、連携したりすることは、確実に日々の支援の質を上げるものであり、今後も大切にしていきたいです。	
	6	平日・休日・長期休暇に応じたきめ細やかな支援	放課後は着実に仲間づくりとコミュニケーションスキルの向上と明日につながる活力になるよう支援をし、休日はライフスキルの獲得と日々培ったスキルを様々な場面へ一般化する場とらえ支援している。長期休暇中は普段できないことに挑戦している。また、その後の学校生活にスムーズに移行できるよう様々な企画を提供している。		左記のとおり、その日そのときに応じた支援が功を奏して、学校生活が充実しているという声をよく聞くようになりました。引き続き、どんなときもワクワク・ドキドキできる支援づくりに取り組んでいきます。	
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	この1年は新しいことにたくさん挑戦した。日々培ったスキルや友達関係をもとに、どんな活動にも前向き、かつ意欲的に取り組んでもらっている。	100%・0%・0%・0% ・様々な活動を提案してくださっているおかげで新しいことに対する抵抗感がかなり薄れたと感じています。新規の活動を計画することはとても大変だと思いますが、とても感謝しています。 ・同じ場所に行くにしても、毎月色々プログラムも工夫していただいていると思います。	基礎はしっかり築く必要はありますが、いろんな場面に一般化（応用）できるチカラこそが、学校や家庭など、それぞれのお子さんが持つ課題を解決することにつながります。引き続き、様々なことに子どもたちと一緒に挑戦していきたいです。	
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	確認の徹底は、最善の支援をおこなうためにも、職員の働き甲斐のためにも、絶対に必要なもので、あえて書くほどのことではないが、前日の終礼で具体的な内容や支援方法を検討し、当日の朝礼でその日の利用児童の詳細と活動の流れや職員の動きなどを検討・共有している。この情報はグループスプレッドシートにて職員全員で共有し、いつでも確認できるようにしている。パートタイムの職員についても出勤時に確認し、勤務のない日の出来事を業務日誌で確認するように促している。		特に変わるものではありません。引き続き、効率よく、かつ的確な情報共有ができるよう努めていきます。	
	9	支援終了後における職員間でのその日おこなわれた支援の振り返りと気づいた点などの情報の共有	上記8と同様に、情報の共有は最善の支援をおこなうためにも、職員の働き甲斐のためにも必須のものと考えている。支援実施中も店内カメラ・インカム（無線）やグループラインを適切に使用し、些細な情報も共有に努めているほか、支援終了後には毎日1時間かけてふりかえりをおこない、一人ひとりの子どもの活動内容や発言などを共有している。そのうえでの気づきを共有し、支援のさらなる充実のための検討をしている。		左記のとおり、1時間をかけておこなう一人ひとりの子どもたちのエピソードの共有を中心にしたふりかえり方法は当事業所らしさを生み出す源であり、大切にしたいものです。特に変わることはありませんが、より充実できるよう努めていきます。	
	10	日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	日々の記録は同時編集ができるグーグルドキュメントを利用し、より書きやすいものとなるよう、適宜見直し、改善を重ねている。また、インカム（無線）の音声データや店内カメラの映像データなどを用いて、より正確な記録に努めている。		グーグルドキュメントを利用することで過去の情報を検索しやすくなったことや、インカムの音声データとカメラの映像データによりヒヤリハットの検証がしやすくなったことで、より充実した支援や活動計画に生きています。これらを活用して、これからもよりよい支援と活動計画を努めていきます。	
	11	定期的なモニタリングの実施および放課後等デイサービス計画の見直し	全員共通で春・秋におこなう形に変更した。保護者への聞き取りは事前に入力いただき効率化をはかるものとした。利用児童への聞き取りは具体的に学校生活の現状や今後の目標を聞くことを加え、より変化を実感したり目標を明確にしたりできるよう変更した。		引き続き、子どもたち自身が変化や成長を実感でき、自信につなげ、学校生活や将来に対して、前向きにとらえることができるよう計画と支援の充実にも努めていきます。	
	区分	チェック項目	現状評価 職員による評価です	保護者の評価 数字は左から順に はい・いいえ どちらともいえない・わからない コメントは原文そのまま掲載	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容 保護者評価を踏まえ、 再度職員の話し合いにより設けた改善目標や今後の運営方針です	
	関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	当事業所の利用児童の95%はセルフプランであり、相談支援事業所を通しての利用児童は5%です。彼らについてサービス担当者会議の必要があれば参加して連携をしていく用意があるが、現在、その必要性がないため、実施していない。		引き続き、学校やスクールソーシャルワーカー・教育委員会、医療、行政との連携はかなり密におこなっています。日々の利用状況の情報共有や、家庭を含む支援の必要性の共有、学校等での指導の参考となる特性理解の共有を頻繁におこなっています。また、不登校児童で希望された方には出席認定もしてもらっています。これからも、保護者の求めに応じて、連携をおこない、支援のさらなる充実をはかっていきます。
		2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施			
3		(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関と連絡体制の整備				

4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	当事業所は小学4年生以上を対象としているため、この項目には該当しない。			
5	放課後等デイサービスからの円滑な就労移行のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供	学校卒業のタイミングでの利用終了のお子さんがいないため、この項目には該当しない。			
6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や専門機関での研修の受講の促進	上記「業務改善の3」と同様に、研修の機会があれば、機会の提供はしている。		引き続き、研修等の機会があれば、情報提供をおこないます。	
7	放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	当事業所では実施していないし、その必要性もないと考える。	23%・8%・54%・15%	当事業所は地域や様々な団体と、年代を問わない交流を積極的におこなっています。それは障害の有無ではなく、いろんな人に必要とされている「自己効力感」を高めるものであり、他者と関わることの楽しさを子どもたちに感じてもらうものです。国および自治体が求める趣旨と異なるため、今後も左記の限定された交流は実施しません。	
8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	塩屋での活動は移転後も継続している。移転後の地域住民を対象とした玄関前イベントや、マルシェ出店などもした。次年度はもっと広く開いたものへと、これまで以上に積極的に取り組む予定である。		この項目も変わるものではありません。当事業所の支援方針を理解いただき、まだ見ぬ、学校がしんどく困っている子どもたちとつながるため、また、自然な交流ができるよう、様々な企画を実施していきます。あわせて、地域の行事や事業所説明会への参加、地域の情報誌や当事業所ホームページ等を通じた情報発信についても、引き続き積極的に取り組んでいきます。	
区分	チェック項目	現状評価	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
		職員による評価です	数字は左から順に はい・いいえ どちらともいえない・わからない コメントは原文そのまま掲載	保護者評価を踏まえ、 再度職員の話し合いにより設けた改善目標や今後の運営方針です	
保護者への説明責任・連携支援	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	開業当初から変わることなく、お問い合わせいただいたときと契約の際にお時間を頂戴して説明している。	85%・0%・0%・15%	引き続き、丁寧な説明に努めていきます。
	2	放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	将来の姿を思い浮かべながら、今やらなければいけないことと今できること等を説明しています。	62%・8%・15%・15%	引き続き、将来に対するイメージがふくらむような説明に努めていきます。
	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレントトレーニング等の支援の実施	従前に変わるものではありませんが、当事業所は保護者の支援力向上そのものを目的とした支援はおこなっていない。しかし、思春期や障害特性・進路などの相談ごとについては丁寧に対応している。	31%・7%・31%・31%	例年に同じく、ペアレントトレーニングについては今後もおこなう予定はありません。むしろ、子どもたちに寄り添う私たちだからこそできる相談の充実をはかっていきます。
	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	当事業所が目指すのは、当事業所で身につけたスキルを学校生活に般化(応用)すること。そのために、当事業所内での活動や他利用児童への関わりをイメージしやすいように今年度も改良を加えた。	69%・8%・8%・15%	当事業所の支援は具体的な数値であらわすことができるものではないため、できるだけ子どもたちまつわるエピソードを伝えることで、変化を感じていただけるよう取り組んでいます。どこまでお伝えできるかは分かりませんが、常によりよいものを目指してまいります。
	5	保護者から子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	相談をいただいた場合には鋭意努力をしている。逆に利用児童から聞く場合も積極的に対応している。	61%・0%・8%・31%	引き続き、随時対応していきます。また、必要に応じて、学校や行政・医療などの関係機関とつなぎ、連携をおこなっていきます。
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	昨年度、改善項目として、どれだけ工夫しても、参加いただく方は同じ方ばかりと書いた。この状況に変化はない。保護者会を兼ねたイベントも、保護者・家族を招いての活動も実施した。	23%・8%・23%・46%	「はい」とお答えいただいた方がとても少なく残念なところですが、毎年実施しています。しかし、いつも参加いただく方が同じというのが現状です。昨年と同じ表現で申し訳ありませんが、本事業で使える時間は学校ほど多くないため、今後も保護者に対してオープンにする行事よりも、地域に出て、様々な人と交流する活動を中心に据えていきます。
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知および苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	苦情か意見・要望等の区別なく受ける体制はあります。その日のうちに職員で把握し、必要があれば、関係機関に相談するなど適切に対応している。	46%・0%・8%・46%	左記のとおり、苦情・意見・要望、その他悩み・不安などありましたら、お電話・メール・ラインもしくは直接おうちがいきます。お気軽におっしゃってください。
	8	障害のある子どもや保護者との意見の疎通や情報伝達のための配慮	例年と同じく、話をしたい場合には相談スペースを使ったり、送迎ルートを変更したりして、話しやすい雰囲気づくりをしている。	70%・0%・15%・15%	引き続き、少しでも多く子どもたち・保護者のニーズ・不安・悩み・愚痴などを聞けるよう、またそれらを日々の支援に反映できるよう努めていきます。
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定・連絡体制等の情報について子どもや保護者への発信	月に一度発行するニュースレターは、昨年度、支援のねらいや様子を共有するとともに、次なる活動に期待が湧くものへ変更し、定着してきていると思う。動画配信については、できていないので、継続課題である。	100%・0%・0%・0%	例年に同じく、現在の利用児童・家族だけでなく、まだ見ぬ、利用者・家族や、似た悩みを抱える子どもたちの励みとなるよう情報発信は大切なツールと考えています。動画配信はその可能性などを再検討します。

	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	請求書等の厳封・利用児童同士の連絡先交換の際の責任の所在の明文化・生理用品の取扱いなど、過去におこなった対応を継続している。	69%・8%・8%・15%	
区分	チェック項目	現状評価		保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
		職員による評価です		数字は左から順に はい・いいえ どちらともいえない・わからない コメントは原文そのまま掲載	保護者評価を踏まえ、 再度職員の話し合いにより設けた改善目標や今後の運営方針です
非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル・防犯マニュアル・感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	左のマニュアルに加え、業務継続計画 (BCP) も作成し、職員はいつでも見られるよう事務室および休憩室に綴じたものを置いています。	69%・8%・8%・15%	必要な措置を講じていることを簡単ではありますが、契約の際にお伝えしています。しかし、その性質上、すべてはお伝えしたり、公開したりできません。ご理解いただけますようお願いいたします。
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難・救出その他必要な訓練の実施	ただの訓練に終わらせず、子どもたち自身が頭で考え、行動できるよう、「避難訓練のイメトレ」として様々な場面を想定した活動のうえに実施した。これは、療育中だけでなく、一人でいるときにも適切な対応ができることを目的におこなった。	77%・0%・0%・23% 防災グッズはあると子供が言っています。避難訓練日には行っていないようでわかりません。	学校と異なり、利用児童ごとに利用頻度が異なるため、全員が参加できるものではありません。ちなみに、このアンケートを全保護者に依頼した前日に避難訓練を実施し、報告もしています。
	3	虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応	一般的な内容の虐待防止研修だけでなく、「よりよい支援」を考えるための研修をおこなっている。あわせて、今年度より設置が義務化された虐待防止委員会も開き、万が一の疑わしき事案発生時の体制などの確認もしている。		例年に同じく、毎日の支援後におこなっているふりかえりは、子どもたちの活動状況についての情報共有だけでなく、職員の子どもへの関わり方についても話すことがあります。いつでも、職員間で話し合える雰囲気づくりに努め、今後も虐待のない事業所運営に努めていきます。
	4	やむを得ず身体拘束をおこなう場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・理解を得た上での放課後等デイサービス計画への記載	上記3と同様に、一般的な身体拘束についての研修だけでなく、「よりよい支援」を考えるための研修をおこなっている。		これまで、このことについて検討する必要はありませんでしたが、身体拘束の3原則（切迫性・非代替性・一時性）に触れ、その影響を考え、そういう事態につながることをのまないよう職員間で努めています。今後も変わりなく、よりよい支援を求めて取り組んでいきます。
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	現在、これに該当する利用児童はいない。		今後、対応が必要になったら、利用児童とスタッフの二重のチェックで事故が起きないように対応します。
	6	ヒヤリハット事例集の作成および事業所内での共有の徹底	今年度も2件（1件は送迎の際の引き渡し方法、もう1件は体育館での活動中について）の報告がありました。利用児童の目線に立って状況を整理し、再発防止に努めている。		これまでと同様に、該当する事例があれば、速やかに口頭と報告書により報告し、職員全員で共有し、事故の原因究明と再発防止に努めていきます。
区分	チェック項目	現状評価		保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
		職員による評価です		数字は左から順に はい・いいえ どちらともいえない・わからない コメントは原文そのまま掲載	保護者評価を踏まえ、 再度職員の話し合いにより設けた改善目標や今後の運営方針です
満足度	1	利用者は通所を楽しみにしているか		92%・0%・8%・0% とても楽しく通っており、体を動かすことも多いようで子供に合っていると思います。いつもご支援ありがとうございます。	・回答ありがとうございました。この一年間は本当にたくさんのお出来事がありました。挑戦することを恐れないことは、子どもたち自身が、同年代と関わりを深めることの楽しさを見だし、達成感や成長を実感することにつながっています。また、イベント参加やミュージックビデオへの出演などのご縁を頂戴しました。一つひとつは小さなきっかけにすぎませんが、積み重ねることで、自信につながり、ジブンのチカラで今の生活を改善することにつながっています。このほか、受験対策やトライやるウィークの受入れなど、個々に応じた取り組みもおこないました。次の1年もしっかり目標を見定めて支援に努めてまいります。今後ともよろしくお願いたします。
	2	事業所の支援に満足しているか		100%・0%・0%・0% 忙しい中でも企画イベントなども仲間体験出来て有り難く思っております。	